

IT パスポート短期合格セミナー

1. 試験体系 <情報処理技術者試験> 経済産業省が実施する国家試験

L4	高度な知識・技能	高度(プロフェッショナル)試験		
		ITストラテジスト試験	システムアーキテクト試験	プロジェクトマネージャ試験
		ネットワーク スペシャリスト試験	データベース スペシャリスト試験	エンベデッドシステム スペシャリスト試験
		情報セキュリティ スペシャリスト試験	ITサービスマネージャ試験	システム監査技術者試験
L3	応用的知識・技能	応用情報技術者試験(AP)		
L2	基本的知識・技能	基本情報技術者試験(FE)		
L1	職業人に共通に求められる基礎知識	ITパスポート試験(IP)		

2. 試験の対象者

職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識をもち、情報技術に携わる業務に就くか、担当業務に対して情報技術を活用していこうとする者

3. 試験日・試験時間・出題形式・出題数

試験日	試験時間	出題形式	出題数
春(4月第3日曜日)	9:30~12:15	四肢択一	88問(小問)+3問(中間)×4 =100問
秋(10月第3日曜日)	(165分)		

4. 配点・合格基準

配点	基準点
1,000点満点	総合得点:満点の60% 分野別得点:分野別満点の30%

5. 応募者数・受験者数・合格率

	応募者数	受験者数	合格者数	合格率
H21 春期	46,845	39,131	28,540	72.9%
H21 秋期	71,856	61,313	31,080	50.7%
H22 春期	63,680	52,299	22,098	42.3%

6. その他

- 経済産業大臣により合格証書が交付。合格証書には、総合得点・分野別得点を記載。
- 試験合格の有効期間はない。
- インターネット申込み(独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)のホームページから)は、8月18日(水)20時締切り、願書郵送申込みは、8月9日(月)消印有効。受験料は5,100円。

7. 学習内容

分野	大分類	小分類	学習時間の目安
ストラテジ系 (戦略)	企業と法務	①企業活動	5 時間
		②法務	
	経営戦略	③経営戦略マネジメント	2.5 時間
		④技術戦略マネジメント	
		⑤ビジネスインダストリ	
	システム戦略	⑥システム戦略	
		⑦システム企画	
出題比率 35%			
マネジメント系 (管理)	開発技術	⑧システム開発技術	3.5 時間
		⑨ソフトウェア開発管理技術	
	プロジェクトマネジメント	⑩プロジェクトマネジメント	1.5 時間
		サービスマネジメント	⑪サービスマネジメント
		⑫システム監査	
テクノロジー系 (技術)	基礎理論	⑬基礎理論	3 時間
		⑭アルゴリズムとプログラミング	
	コンピュータシステム	⑮コンピュータ構成要素	3.5 時間
		⑯システム構成要素	
		⑰ソフトウェア	2.5 時間
		⑱ハードウェア	
	技術要素	⑲ヒューマンインタフェース	3.5 時間
		⑳マルチメディア	
		㉑データベース	
		㉒ネットワーク	5 時間
㉓セキュリティ			
出題比率 40%			
合計			30 時間

<ストラテジ系>

①組織形態、品質管理技法(QC 七つ道具)、財務会計(財務諸表)、管理会計(損益分析) ②知的財産権(著作権)、労働法規(派遣と請負) ③PPM(Products Portfolio Management) ⑤EC と EDI ⑥BPR(Business Process Reengineering) ⑦RFP(Request For Proposal)

<マネジメント系>

⑧開発モデル(ウォーターフォールモデルとプロトタイプモデル)、DFD(Data Flow Diagram)、テスト、運用(バックアップ) ⑩PERT ⑪サービスデスク ⑫内部統制

<テクノロジー系>

⑬進数 ⑭プログラム言語、マークアップ言語 ⑮五大装置 ⑯クライアントサーバシステム、稼働率 ⑰OS、文字コード、表計算ソフト ⑱パソコン ⑲GUI ⑳データフォーマット ㉑関係データベース ㉒インターネット、LAN、WAN ㉓暗号化技術、認証技術、コンピュータウイルス

8. 過去問題の例

<ストラテジ系>

問 経営組織のうち、事業部制組織はどれか。(①からの出題)

- ア 社内組織を小集団に分け、全体を構成する一部の機能として相互作用的に活動させる。
- イ 商品企画、購買、製造、営業といった同じ機能を行う単位で、社内組織を分割する。
- ウ 製品や市場ごとに社内組織を分割し、利益責任単位として権限と目標が与えられる。
- エ 二つの異なる組織体系に社員が所属することによって、必要に応じて業務に柔軟に対処する。

問 知的財産権のうち、権利の発生のために申請や登録の手続きを必要としないものはどれか。(②からの出題)

- ア 意匠権 イ 実用新案権 ウ 著作権 エ 特許権

問 プロダクトポートフォリオマネジメントでは、縦軸に市場成長率、横軸に市場占有率をとったマトリックス図を四つの象限に区分し、製品の市場における位置付けを分析して資源配分を検討する。四つの象限のうち、市場成長率は低いが市場占有率を高く保っている製品の位置付けはどれか。(③からの出題)

- ア 金のなる木 イ 花形製品 ウ 負け犬 エ 問題児

<マネジメント系>

問 ソフトウェア開発プロセスを“要件定義”、“システム設計”、“プログラミング”、“テスト”の各工程に区切って、この順に進める手法の長所はどれか。(⑧からの出題)

- ア 開発工程のどの時点でも、ソフトウェアの仕様変更に対応できる。
- イ 開発の進捗状況の把握が容易である。
- ウ 上流工程におけるレビューの工数が少なくて済む。
- エ 利用者が、開発の早い時期にソフトウェアを試用できる。

問 入力と出力だけに着目して様々な入力に対して仕様書どおりの出力が得られるかどうかを確認していく、システムの内部構造とは無関係に外部から見た機能について検証するテスト方法はどれか。(⑧からの出題)

- ア 運用テスト イ 結合テスト ウ ブラックボックステスト エ ホワイトボックステスト

<テクノロジー系>

問 2 台の処理装置からなるシステムがある。両方の処理装置が正常に稼働しないとシステムは稼働しない。処理装置の稼働率がいずれも 0.90 であるときのシステムの稼働率は幾らか。ここで、0.90 の稼働率とは、不定期に発生する故障の発生によって運転時間の 10%は停止し、残りの 90%は正常に稼働することを表す。2 台の処理装置の故障には因果関係はないものとする。(⑩からの出題)

- ア 0.81 イ 0.90 ウ 0.95 エ 0.99

問 PC 間で電子メールを送受信する場合に、それぞれの PC とメールサーバとのやり取りで利用される通信プロトコルに関する記述のうち、適切なものはどれか。(⑫からの出題)

- ア PC から送信するときは POP が利用され、受信するときは SMTP が利用される。
- イ PC から送信するときは SMTP が利用され、受信するときは POP が利用される。
- ウ PC から送信するときも、受信するときも、ともに POP が利用される。
- エ PC から送信するときも、受信するときも、ともに SMTP が利用される。

問 暗号化に関する記述のうち、適切なものはどれか。(⑬からの出題)

- ア 暗号文を平文に戻すことをリセットという。
- イ 共通鍵暗号方式では、暗号文と共通鍵を同時に送信する。
- ウ 公開鍵暗号方式では、暗号化のための鍵と平文に戻すための鍵が異なる。
- エ 電子署名には、共通鍵暗号方式が使われる。

9. 短期合格のための効果的な学習法

(1) 教材

ポイント集, 本試験問題, (テキスト, 分野別問題集)

(2) 学習スケジュール…(学習期間の目安:3ヶ月)

1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	10/17
ストラテジ系 マネジメント系	テクノロジー系	本試験問題演習 (公開模試)	本試験
ポイント集 (テキスト・分野別問題集)		本試験問題 (模擬試験)	

<参考>

●TAC 教室講座(集中特訓コース)

[基本講義] 2.5 時間×6 回=15 時間

[学習時間合計] 15 時間×2=30 時間

●使用教材

- ・超速ポイント集
- ・試験対策テキスト
- ・問題集…本試験問題集(3 回分)／試験対策問題集(分野別),

(3) 学習方法

・大分類ごとに、ポイント集で重要ポイントを学習(インプット)→問題集で演習(アウトプット)を繰り返す

- ・ポイント集で用語を定着させる
- ・本試験問題の「中間」を解いて、中間対策を行う
- ・計算問題のパターンをつかむ
- ・模擬試験などを利用して、165 分で 100 問を解く練習をする
- ・表計算・データベースは、初級シスアドほど深掘しなくてよい

中間C 事業戦略立案に関する次の記述を読んで、問97 ～ 100 に答えよ。

健康食品メーカーの S 社の企画部では、健康菓子事業の戦略立案を進めており、自社の状況を、SWOT 分析での強み、弱み、機会、脅威に分類して認識し、採るべき戦略を検討して二つの方針案を作成した。

S 社の状況と方針案の概要は、次のとおりである。

[S 社の状況]

- (1) 営業拠点数が他社よりも少ない。
- (2) 競合する T 社の健康菓子事業の撤退が決まった。
- (3) 競合他社よりも高い商品企画力をもっている。
- (4) 健康志向の高まりで、健康食品への関心が高まっている。
- (5) 工場の老朽化が進んでいる。
- (6) 少子化によって子供の人口が減少している。
- (7) 食品の安全性に対する消費者の目が厳しくなっている。
- (8) 顧客の会員化によって顧客情報が集まり、富裕層の会員獲得にも成功している。

[方針案の概要]

方針案 1：強みを更に伸ばすために、情報システムを強化する。

方針案 2：自社の事業の拡大を図るために、T 社が撤退する事業を買収する。

ここ数年の健康菓子の市場シェアは、Q 社 25%、R 社 16%、S 社 12%、T 社 10%、その他 37%である。

〔ストラテジ〕

問97 〔S社の状況〕を次の図のようなマトリックスで整理する。〔S社の状況〕の(1)と(2)を図のa～dに分類するとき、適切な組合せはどれか。

	有利な面	不利な面
内部環境	a	b
外部環境	c	d

	(1)を入れる場所	(2)を入れる場所
ア	b	c
イ	b	d
ウ	d	c
エ	d	d

〔ストラテジ〕

問98 〔S社の状況〕の中で、強みに分類されるものとして、適切な組合せはどれか。

ア (1)と(5) イ (2)と(4) ウ (3)と(8) エ (6)と(7)

〔ストラテジ〕

問99 方針案 1 に沿って、強みを更に伸ばすための方策に関する記述として、適切なものはどれか。

- ア 営業拠点数の影響を受けにくいインターネットによる通信販売システムを導入する。
- イ 顧客の購買データを分析して、会員にきめの細かいサービスを提供するために、CRM システムを構築する。
- ウ 商品の生産工程における安全管理を徹底するために、生産管理システムの刷新を図る。
- エ 成人向け健康菓子の企画に際して、各地域の人口分布に関する統計データを分析することを目的として、POS システムを導入する。

〔ストラテジ〕

問100 方針案 2 を進めた場合、〔S社の状況〕の(1)と(5)に対処することができ、T社が占めていた市場シェアをほぼ確保できる見込みである。市場シェアに基づいて次の表のような戦略を採った場合、買収後の S 社の戦略に関する記述として、適切なものはどれか。

市場シェア	採る戦略
市場シェアが 1 位の企業	市場全体の規模拡大
市場シェアが 2 位の企業	自社の強みで他社を攻撃
市場シェアが 3 位以下だが、特定商品の市場シェアは 1 位の企業	特定ニーズへの適応
上記以外	模倣によるコストの節約

- ア Q 社の人気商品に類似した健康菓子を商品化し、Q 社よりも低価格で販売する。
- イ アレルギーに配慮した健康菓子の生産に特化して、高価格、高収益を目指す。
- ウ 広告などによって人々の健康志向を高め、健康菓子の需要そのものを増やす。
- エ 商品企画に関連する部門に資金を投入して、競争力の高い優れた商品を企画し、販売する。